

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

《饗庭の日瓜そば粉「川上蕎麦」さん―地産地消―》

161号線深清水ランプを降りて北へ少し、山荘の一角にログハウス！座るとそば茶と蕎麦せんべいが出てきます。そして十割蕎麦を比良山系の真水で一口戴きます。これが圧巻です。

十割のもり蕎麦、地野菜の天ぷら、二八蕎麦のぶっかけは山葵か？辛味大根か？山芋かはお好みで。手作りの蕎麦ボーロにコーヒが出てきます。十割蕎麦と二八蕎麦が食べ比べられる妙味は最高です。(お蕎麦の追加はOK)

大坂の電機メーカーを定年退社後、蕎麦打ち修行、数年前に山荘で開業。冬以外の土日祝で予約のみ。趣味の範疇を超えて玄人裸足？琵琶湖北西の松林中庄浜の別荘に行った時のランチに最適で利用させて戴いています。

京都市セラ美術館

《京都の美術250年の夢 第一部〜第三部総集編》

10月10日〜12月6日

本展では1933年に「大礼記念京都美術館」という名称で開館して3年目にあたる1935年に開かれた展覧会「本館所蔵品陳列」と同じ出品作品47点が並ぶ。京都画壇に代表されるような日本画、いろいろな素材の彫刻、陶器や漆器などの工芸といった作品が展示されており、同じ時代の京都という町に、こうした幅広いジャンルのクリエイターたちがいたことに気付かされる。展示室で心が弾むのは、80年以上経った今見ても彼らが残した作品のモチーフや色がとても新鮮に感じられるからだろう。展示室の一角では当時どのような作品が収蔵に至ったかという記録資料もあり興味深い。京都の美術の流れは、現代まで脈々と流れている。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《ダムと緑のダム / 虫明功臣他監修》

日本のインフラは大丈夫か？①

今年7月に九州を襲った豪雨により球磨川が氾濫、熊本県では死者・行方不明者は50人以上、被害額は1千億円以上という大きな被害が出た。球磨川は「日本三大急流」に位置づけられ以前より水害の危険性が高くその対策が急務とされてきた技術的な検討の結果、最も効果的なのが川辺川ダムの建設であった。1966年より工事が始まり2008年には70%ほど工事は進捗していたが、蒲島熊本県知事は環境の保護等を理由にダム建設の中止を表明。その後はダムに替わる明確な治水事業を行うことが無かった。もし川辺川ダムが完成していたら今回の災害もかなり低減出来たと言われ、甚大な被害は「人災」という声もある。本書は「ダム擁護」でもなく主に森林に治水を委ねる「緑のダム擁護」でもない。それぞれの特徴を示しその両方を用いて水災害に対応するように説いている。バランスのとれた良書だ。

土口哲光和尚の説法

《苦難を奇貨に棚経に参列》

マスクを着用してのお盆・棚経は、肅々と三十三軒を終えた。お檀家は神戸市郊外の青田風が吹き通る農家が主で、なかには市内へ勤務する家人が自肅中である。この苦難を奇貨として仏前に集まり、マスクの合掌姿に転じられた。それに初盆のご家庭においては、二十人を超える家族・親族らで一斉に般若心経、南無大師遍照金剛を唱名声の高まりに、「私が今日あるのは先祖さまのおかげです」との信念を聞いた。一方、移動困難の直撃を受け、東京から実家に帰省できないご子息家族一同とは、スマートホンのテレビ電話を使い、読経から後の語りまでを収録、参画されたお檀家は牛やニワトリを家族の一員とする素朴な生活感情を父祖伝来、身体で受け継いでいる。

季節の家庭料理 田村 真紀

《十月 揚げ鯖と蓮根のサラダ》

〔作り方・四人分〕

鯖切身四枚・蓮根百五十グラム・水菜一束・紫玉葱半個・たれ(ポン酢・麵つゆ・ゴマ油各大匙二・長葱のみじん切り半分・生姜のすりおろし少々)揚げ油・塩・片栗粉各適量
水菜はよく洗い三センチ幅に切る。玉葱は薄くスライスして水にさらす。鯖は骨抜きし、塩少々を全体に振ってしばらく置き、キッチンペーパーで水気を拭きとり一口大に切る。蓮根は皮をむき半月切りにスライスし、酢水にさらしてから水分を押さえ、鯖とともに片栗粉をたっぷりまぶす。フライパンに多めの油をひき、鯖と蓮根を揚げ焼きする。水菜・玉葱を合わせて皿にひき、鯖と蓮根を乗せ、たれの材料を混ぜ合わせ、全体かける。

つれづれの記 山崎 辰巳

《勤勉さと儉約の精神》

コロナ禍に翻弄され、社会経済の仕組みが変化し、仕事や暮らしのリズムが狂い、今、多くの人たちが先行きに不安を感じ、日本が長い間に積み上げてきた繁栄と安定が音を立って瓦解しようとしている。
これまで日本の発展を支えてきたのは国民の勤勉さと儉約のハングリー精神によるものだが、いつの間にか豊かで便利な物質文明に恵まれ、それを当たり前のように錯覚し、不便で不自由な時代のことを忘れてしまった。
想定外の現実に直面して、例え今後、社会経済の歩調の乱れが少しは持ち直しても、当分は混迷が続くに違いない。この不透明な流れを断ち切るには、今いちど日本人の誇りとする勤勉さと儉約の精神を思い返し、勇気をもって丁寧な難局と向き合うことが大切だ。